８月の防除のポイント

令和５年７月28日
東京都病害虫防除所

主な作物の病害虫防除について、お知らせします。

＜農作物全般＞
〇在来天敵等の活用
　環境負荷を低減するため天敵利用による防除が有効です。特にヒメハナカメムシ類は、アザミウマ類やハダニ類の在来天敵として８月を中心に大きな役割を果たし、市販の天敵製剤としても普及しています。しかし、すべての害虫を天敵のみで防除するのは難しいため、ＢＴ剤やＩＧＲ剤など天敵に影響の少ない農薬を併用し、害虫の密度を下げることが重要です。適切な殺虫剤を選択し、天敵、害虫の防除バランスを上手に構築しましょう。

〇タバコガ類（図１、２）
　７月の巡回調査でタバコガ類によるトマト、ナス果実への食害が確認されました。特にオオタバコガは寄主範囲が広く、キャベツ等の葉菜類も加害します。今後、増加期にあたるため、被害が多くなると予想されます。ほ場を注意深く見回り、食害の痕跡がある場合は、若齢幼虫のうちに防除指針を参考として確実に防除しましょう。また、被害果は速やかに除去しましょう。

図１　トマトを加害するタバコガ類

図２　ナスの花を加害するタバコガ類

＜トマト＞

○トマトのウイルス病

ウイルス病は手や資材を介した接触や微小害虫による吸汁から感染し、一旦感染した株は回復しないので予防と発生時の早期防除が重要です。特に促成長期どり栽培や抑制栽培の生育初期にあたる８月から９月にかけては、その後の長丁場を無駄にしないためにウイルス病の対策を徹底しましょう。

育苗期は株が密集しているので感染すると蔓延しやすく、被害が大きくなります。ウイルスを媒介するコナジラミ類やアザミウマ類の侵入を防ぐには、0.4㎜目合の防虫ネットを施設開口部に張ると有効ですが、高温になるのが欠点です。0.6㎜目合では通気性が改善され、防除効果もある程度は期待できます。また、黄色粘着板の設置は媒介虫の早期発生に有効です。

特にトマト黄化葉巻病は感染力が強く、低密度でも大きな被害を及ぼします。媒介するタバココナジラミを発生させないように防除指針を参考に適切な防除を行いましょう。

＜ネギ類＞

○ネギアザミウマ

巡回調査では寄生率が高く、今後も増加期にあたるため被害が多くなると予想されます。ネギアザミウマは薬剤抵抗性が懸念されていますので、防除指針を参考に適切な農薬を選択し、ローテーション散布を行いましょう。

＜アブラナ科野菜＞

○ハイマダラノメイガ

夏季の気温が高く、乾燥している条件で多発します。ダイコンシンクイの名で知られるように、アブラナ科野菜の発芽直後に食害するため、生長点がなくなってしまいます。気付かないうちに加害されているケースが多いので、予防が重要です。ハクサイやキャベツ、ブロッコリーでは、特に育苗期に防虫ネットを活用するなど重点的に、また、ダイコン、カブ、コマツナなどは、播種、定植時の粒剤、セル苗であれば、灌注処理をうまく活用してください。防除指針を参照して適切な防除を心がけてください。

上記以外の病害虫についてのご相談は、電話（042-525-8236）又はＥメール（S0200303@section.metro.tokyo.jp）にてお問い合わせ下さい。